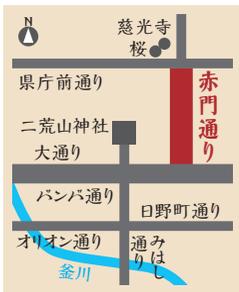




▲焼失前の赤門（赤門大復興より）



赤門通り

旅籠屋（はたご今でいう旅館）に生まれた枝源五郎は、宇都宮城下の人々から3年がかりで寄付を集め、安永7年（1778年）、慈光寺に山門（仁王門）を造りました。山門は赤く塗られていたので、通称「赤門」と呼ばれていた。これが赤門通りの名前の由来となっています。

しかし、昭和20年（1945年）の宇都宮大空襲により、赤門は焼失。その時は戦地に赴いていました。帰ってきたとき、あるべきはずの赤門がなくなっているのを見て、とてもさびしく、歯の抜けたような思いでした。平成20年（2008年）、見事に復興し、立派な赤門が元に戻ったときはとてもうれしかったですね。

さらに、赤門通りと言えば、慈光寺の桜が有名です。これからの桜の季節は赤門通りが一番にぎやかになり

赤門通りはゆるやかなカーブになっています。昔は求喰川（あさり）の支流がカーブに沿って流れていました。今はもう川の面影はありませんが、そのカーブを抜けると、堂々とした赤門と美しい桜がふいに現れます。私はその風景がとても気に入っています。皆さんもこれからの季節、赤門通りに訪れて、赤門と桜を楽しんでみませんか。

まず、慈光寺の彼岸桜は、宇都宮で一番早く咲く桜として有名です。樹齢はなんと約180年にもなるんですよ。この桜を見に、毎年カメラを持った人々がこの通りを埋め尽くします。私も、子どもの頃から桜をこの通りで眺めるのが楽しみでした。あの頃は、桜の実をつぶして絵の具代わりに絵を描くことが、とっておきの遊びでしたね。



▲慈光寺の彼岸桜

うつのみや路物語

みち 路の数だけ物語がある。うつのみやの路を紹介します。



増田2丁目

増田 仁孝さん